

第1回学校規模適正化・適正配置推進計画策定委員会 開催結果（概要）

- 1 日時 令和6年8月28日（水）、18時30分～20時05分
- 2 開催場所 中妻地区生活応援センター 大集会室
- 3 出席委員 市村かおり委員、山蔭深思委員、小笠原慎二委員、長谷川利香委員、上小路悠子委員、内川留依委員、小笠原英美委員、佐々木猛委員、福成菜穂子委員、檜山知美委員、柴田渥委員、洞口政伸委員、佐々木啓二委員、市川淳子委員、常陸奈緒子委員、鈴木崇委員、藤井智哉委員（17人）
- 4 欠席委員 遠藤一彦委員、合田育美委員（2人）
- 5 事務局 高橋勝教育長、藤井充彦教育部長、笹村聡一総務課長、佐々木薫学校規模適正化推進室課長、浅野純一学校教育課長、鈴木隆光学校教育課主幹、佐々木憲一郎総務課長補佐、前川恵美総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐（9人）

6 経過

(1) 開会

藤井教育部長が開会を宣言

(2) 委嘱状の交付

(3) 委員及び事務局職員紹介

(4) 教育長あいさつ

（高橋教育長）

改めまして、釜石市教育委員会教育長高橋です。どうぞよろしく申し上げます。

本日はお忙しい中、委員を引き受けてくださったこと、そしてこの会議にご参加いただきまして心から感謝申し上げます。

当市では、少子高齢化の進展に伴い、出生数の減少、そして児童生徒数の減少が今後も続く見通しとなっております。平成22年度の小学校の児童数は1,927人、それから中学校の生徒数が996人、合計2,923人でした。それが、令和5年5月1日時点の基本方針策定時の推計によると、令和6年度の児童数は1,118人、中学校の生徒数は624人、計1,742人となっております。平成22年度から15年ほど経て、合計数で、児童生徒数が1,200人ほど減っている状況です。このことについては後で説明があると思いますが、さらに令和11年度の、小学校の児童数が826人、それから令和17年度の中学校の生徒数は375人と、このような状況に推移する見込みであると教育委員会としては捉えております。

この状況を踏まえ、教育委員会では、令和3年度に学校規模適正化・適正配置検討委員会を設置し、提言という形で学校規模の適正化・適正配置についての御意見をいただき、その提言をもとに、令和5年度に基本方針案を策定いたしました。

そして、パブリックコメントや、中学校区ごとに5ヶ所で説明会を実施して意見を頂戴しました。また、適正化に関するアンケートも実施しております。

これらを通して、学校規模の適正化は推進すべきものと判断し、令和5年度3月に学校規模適正化基本方針「案」を取って、基本方針を作成したところです。

教育委員会では、この基本方針に基づき、現在、各学校の校長先生やPTA役員から適正化に係るお話をお聞きしながら、具体的な計画案の策定の準備をしているところであり、今後、本推進委員会に計画案を示し、御意見をいただきたいと考えております。

具体的な計画案の策定には様々な課題があると認識しております。ぜひ、委員の皆様のお知恵をお借りしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

当市では、平成10年度から平成22年度にかけて、学校規模の適正化、いわゆる学校統合が行われ、現在小学校9校、中学校5校、計14校となっております。委員の皆様の中にはもしかすると自分の出身小学校や出身中学校が、もはや統合してなくなっているという方もいらっしゃるのではないかなと思います。

前回の学校統合については、学校数も多かったことから、比較的近いところでの統合ということが中心になりました。今回の適正化につきましては、広域になるということも想定しております。

その辺のところは様々な課題があるので、広域化になるのかそれともやっぱり諸条件からなかなか難しい、ということになるかは、今後、この場で協議していただくことになると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員の皆様には、それぞれ地域の代表であるとともに、または市の代表というふうな立場から御意見を頂戴できれば幸いです。

本日の会議は、第1回目ということで、これから御意見を頂くにあたって、同推進計画策定委員会の設置の目的、それから改めて当市の現状と今後の児童生徒数の見込み、それからこれまでの経緯の説明及び基本方針の説明、今後の進め方等の説明など、説明が中心になると思いますが、どうぞご理解いただきますようお願いいたします。

(5) 委員長及び副委員長の選出

※互選により、委員長は福成菜穂子委員、副委員長は小笠原慎二委員に決定

(6) 委員長あいさつ

(福成委員長)

釜石の未来の子どもたちのより良い教育環境づくりを、皆さんと意見を交わす仲間に入れていただいたということで、これから皆さんと一緒に進めたいと思う。

この会議は、学校統合をどうするのかを決める会議ではないことを皆さんに御理解いただきたいのと、その中で、どうしていったら良い方向で合併統合に向けて適正に

進んでいけるか、そういう御意見をぜひ頂戴したいと思っている。

(7) 説明及び協議

①委員会設置の目的・委員会の役割について

・佐々木学校規模適正化推進室課長が、資料1に基づき説明

②釜石市立小中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針について

・佐々木学校規模適正化推進室課長が、資料2-1～2-4に基づき説明

③保護者アンケートの結果について

・佐々木学校規模適正化推進室課長が資料3-1、3-2に基づき説明

④令和6年度の学校規模適正化の取り組みについて

・佐々木学校規模適正化推進室課長が資料4を基に説明

(福成委員長)

今日の会議は、お手元の資料を御覧になってその説明をまず聞く方向で進めさせていただいたが、せっかくなので、皆さんが学校規模の適正化について普段思っていることを、一言ずつお願いしたい。

(委員)

私の出身小学校、中学校も全部廃校になっている。

資料の色々な数字を見て率直な意見を述べさせていただくと、統合に反対ではないという多くの意見があるので、そっちに向かったほうがいいのではないかと正直思う。

通学とか送り迎えが大変だっというのは当然あると思うが、子どもたちのことを考えれば、私も人数が多い学校はいいなと思っていた部分もあるし、少人数の学校出身の知人からも、「やっぱり多い学校は羨ましかったよね、何でもできるよね」という意見を聞いたし、この数字を改めて見るとまだ足踏みをする必要があるのかなというのが率直な意見。

課題はいっぱいあるとは思いますが、私の意見としてはもう統合に向かって走っていてもいいのかなと思う。

(委員)

具体的な数字を見て、ここまで児童数が減るのかと本当に驚いた。

私も以前、小規模校にも複式の学校にも何年もいて、その時はそれなりに小規模校の良さを感じながら、複式の学級でも頑張って勤めてきたが、その良さも、あまりに

数が減りすぎると、教育の質を確保することは非常に難しいというのが率直な思い。教育の公平性を確保するためにはある程度の人数は必要かなと痛感した。

そこを考えると、小規模校、複式学級の保護者の方々が、統合に賛成の意見が多いということは、非常にありがたいと思った。

そういう意見を踏まえて、やっぱり統合してよかった、子どもたちが元気に通っている、安心して通えているなど、そう思えるような統合の方向性を探っていく必要があると感じた。

(委員)

今皆さんも話された通り、人数の減少という現実を鑑みると、統合していくという方向性はもう避けられない状況なのかなと思うので、そういったことを前提としながら、釜石のどこの地域の方々も、どういうふうにすれば学校教育に何かしらの形で関わることができるのかというような観点や、前向きな方向で議論がなされていけばいいのかなと思う。

あとは、色々と資料を見て率直に思ったところでいうと、釜石だけではなく日本全体でこういったことが行われていると思うので、他の自治体の先進的な事例とか、逆にうまくいかなかった事例とか、そういったものも参考にしながら意見交換ができればいいと感じた。

(委員)

地域住民として今思っていることは、コロナ禍で地域と学校が関わる機会がなく、現状を分かっていないなということ。コロナが明けたので、学校との交流を計画してやっているが、子どもたちの減少率もさることながら、今の子どもたちは、1年生からタブレットを1台ずつ配布されていたり、自分たちのときには学校で椅子に座ってなければ怒られたのに、自由に発言して動き回って、アクティブラーニングとか、そういう手法にびっくりしている。

アンケートの中で、地域の人達の圧がすごいとあるが、やはり現状をお互い理解し合うところからスタートなのかなと思った。そういうことの積み重ねを丁寧にやっていかないと、きちんとした計画策定には向かっていかないのかなと思っている。

アンケート結果を見たが、正直な意見でその通りだと思う。統合に向かうのはみんな分かってはいるが、いざ自分の立場になったら困る。小さな困りごとや、現状の認識を積み上げていく作業が最も大事なかなと思っている。

もう1つは、やりたいことが明確な子どもたちは、住民票が釜石にあっても仙台や盛岡とかに中学校から動いている現状があるので、統合するときには、「釜石で子育てして学校に行かせてよかった」、「学校の選択は釜石でなければいけない」と、公立ではあるが、住民や保護者に選ばれる、望まれるような学校の中身の充実というところ

るも検討して進めていければ、未来の子どもたちに胸を張って提言できる計画案を策定できるのではないかと考えている。

(委員)

私らの子ども時代にはほとんど考える必要もなかったが、今の時代、少人数ということで統合になってしまう。地元で学校がなくなるというのは本当に一番悲しいこと。

そして、生活基盤が全然違ってくるので、できれば大きいほうから小さいほうに統合することが一番いいと思うが、小さいほうから大きいほうに行かなきゃならないのがこれからの常なのだろうから、私らの時代とは全然違って本当に悲しい思いでこれから過ごさなければ駄目だなと、先を見ている。

(福成委員長)

本当にそういう意見は多いと思う。

(委員)

甲子から東部、西部、そして鶴住居、栗橋で統合していない地区はない。ここに適正化基本方針があるが、今、令和6年で、統合までにまた何年か掛かるとなると、すぐ令和12年になってしまう。令和12年になったらまた同じような議論をするのか。ここに載っている基本方針で「中学校区5校に小学校を1つ置く」というが、いつまで置くのか、いつまでそういう考え方をするのか。人が減っていくから統合するのか、教育方針として統合するのか。できれば、極端な話、何年ぐらいまでは次の統合の議論はしないということをお願いしたい。これからずっと子どもたちが減っていく。そうするとまたこのような委員会ができて、指針や基本方針ができる。そうすると保護者は釜石の学校に預けたほうがいいのか、他に預けたほうがいいのか不安にくる。

これに載っている「5校の中学校区に小学校を1校は残すことを基本とする」というのは、令和何年までやるとか、1、2年ずれてもいいので、基本的な話をここでしてもらわないと、ずっと統合、統合と続くことになる。そこら辺をもう少し具体的に詰めて、決定ではなくていいので、何年頃まではこの状態でいきたい、だから学級数や子どもが減っても、この状態は何年頃までは維持したいということ、人と学級が減ったから統合するのではないということも入れたほうがよい。私は、統合反対とかは考えていないが、子どもが減った時にまたこの議論をされると、その時の父兄の方や保護者の方々は「えっ」という話になると思うので、できれば教育委員会で具体的にまでいかななくてもいいので、そこら辺も示してもらえれば助かるのかなと考えている。

(委員)

今現在、子どもたちを学校に通わせている保護者の中で、まだこの学校統合についての実情を知らない、それから、なぜ統合ということになるのかという問題意識を持っていない方もいるということだが、それはすごく問題ありだと思う。

それから、学校教育の次にすぐ「地域の皆さんと」、というような形で「地域」が出てくるが、御承知のとおり地域は弱体化している。超高齢化社会になり、かつてのように地域活動が盛んな状況ではないということも少し踏まえながら、参考にしてやっていければありがたいと思う。

結果的には統合に賛成。先ほど話があったが、時期を明確にとかそういうきちっとしたものを望むのはわかるが、今これだけの資料の中で示されているので、私は計画に基づいて早急にそういう方向に進んだ方がいいと思う。

それから細かいことだが、一番父兄の人たちが心配しているのは、自分の子どもたちをどういうふうにして学校に通わせるかということだと思う。統合した後の課題を今から探りながら色々挙げていかないと、後々の解決には絶対繋がっていかないと思う。

それから「ことばの教室」のような教室の在り方について。「ことばの教室」だけではなく、例えば防災教室とかいろんなものが出てくると思うが、そのような学校教育の中でできるものをもっと増やしていければいいのではないかと思った。

(福成委員長)

地域性をどう考えていくかというのは重大な問題で、我が地域には学校が1つあってほしいと誰もが望むでしょうけど、釜石全体の地域の在り方が昔とは変わってきていることも、そこにに関わり合うことも、今の若い人達は、十分に感じている。だからその地域という考え方をもうちょっと広めて、釜石が地域全体をどうまとめていくか、どう進めていったら子どもたちのために一番いい環境づくりができるのかということ、心に留めて進めていきたい。

(委員)

こども園が6年前にスタートして、80名ぐらいいた子どもたちも、今は39名。0歳児から5歳児まで、ぐっと減っている。ちなみに0歳児は3人だけ。

各クラスそれぞれ適切な保育をするために、0歳児の保育、1歳児の保育と分けて行いたい、先生たちの業務も朝7時から夜7時までということもあり、早朝と夕方は合同保育をやっている。その中で、子どもたちがみんな、0歳児から5歳児まで、大きい子どもたちが小さい子どもたちのお世話をしたり、たくさんの子どもの中でいろんな経験を切磋琢磨している姿を見ると、やはり小規模よりもたくさんいる子どもたちと関わっていたほうが、子どもたちが主体的な活動ができるんだなと思って過ごしている。

色々課題はあり、教育委員会も大変だと思うが、いろんな意見がある中で、目と心向き合って話していけば分かり合えると思っている。先生たちも、日々保護者と向き合っているのだから、そういうふうに丁寧に対応していけば、子どもたちの明るい未来が待っているのではないかと考えている。

(委員)

今までの話と重なる部分もたくさんあるが、一番大事にしなければならないのは、やはりこの基本方針の目的であり、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備するために大人が決断する時期なのだろうと考えている。子どもたちが自立して社会で幸せに生きていけるようにすることは大人の役目だと思うが、やはり中学校教育ではある程度の学校規模が必要になってくる。

もちろん小規模校の良さはあるが、社会に巣立っていく中で、大規模の中で様々揉まれたり、切磋琢磨したり、触発されたりという場が必要だと思う。

そういう意味でやはりこの「子どもたちにとって」というところを絶対離れないで検討して案を練っていかねば、と思う。

学校統合によって新たな課題が色々出てくると思うが、新たな課題が生まれるから学校統合をしないのではなくて、新たな課題には新たに向き合うという発想が必要。そうでなければ、いつまでたっても統合するかしらないかという話になる。課題が出てくるのが当たり前で、それを解決するのが大人の役割だと思う。

それから、今日示された中で、もう少し吟味して自分も勉強しておきたいと思うのは、この適正化・適正配置はいつを見通しての話なのかということ。10年後なのか、30年後なのか、50年後なのか、それによって説明の仕方も違って来るし、さらにその先どうなっていくかということも必要だと思う。いつを見通した案、計画なのかというあたりを併せて今後具体化する中で出していければと思っている。

(福成委員長)

説明を受けた中で、例えば合併統合したりしても、そこから5年したら、またさらにそれが必要だという現状を踏まえて、どんな方法が子どもたちにより良いのか、望ましいのかということを中心に考えながら、この会議を進めていきたいと思う。

(委員)

統合はまだまだ先の事だと思っていて、それこそ自分事として捉えていなかったのだから、今日は資料を見て、皆さんの話を聞いて、青天の霹靂というか、ちょっとどうしようと思った。

統合自体はしなければいけないだろうというのは私自身も感じていたので、そうするしかないのかなと思っていた。それで、自分自身に何か問題が出てくるのかなと考え

ると、やはり送り迎えが心配。スクールバスが出るのかもしれないが、習い事をいくつかしているので、放課後に通えるところに行って習い事をすることが、もしかしたらうまく回らなくなるのかもしれない。

私自身も仕事をしているので、子どもが小学校に入りたての頃は学童を利用していた。私の子どもが行っていたときには、多分60人から80人くらい在籍していて、皆がいるといっぱいになってしまうので、家で留守番できる高学年の子たちは、できるだけ家で、という話もされていた。もしも大きな規模の学校に統合するとしたときに、学童として受け入れる施設はあるのか不安に思っている。

そもそも少子化が一番の問題だと思う。子どもが増えなければこの問題は続いていくと思うし、将来は見通せないし、釜石市では子どもを産める病院がないし、そこに行き着いてしまう。元を絶たないとな、とは思う。

大きな規模の学校になるといいことがいっぱいある。できることが増える。部活動や行事、あとはクラス替えもすごく重要なのではないかと思っている。子どもも、クラス替えの時に新しい友達ができ、この子と仲良くなった、と言っていて、今までとは違う交友関係ができて、刺激になってすごくいいなと思っている。私が小学生のときは1クラスしかなくクラス替えが6年間なかった。慣れたメンバーではあったが、やっぱり刺激が欲しかったなというのものもあるし、クラス替えはいいなと思う。

ただ、大きくなれば組織は複雑になると思っている。例えば、小学校では縦割り班で掃除をしたり、あとは子供会とかはちょっと複雑になって、もしかしたら淡白なものになってしまうのではないかという心配はある。

甥っ子がある統合後の小学校に通っている。この前、子供会の夏休みの行事は何があるのか聞いたら、地元の住んでいるところの子供会ではなく違う学区の子供会に入っているということで、自分が好きな地区に所属していいという、ちょっと面白い取組をしていた。そういう柔軟な考えもいいのかなと思った。

今回、統合については、資料を読んでもう少し知識を入れて、皆さんの意見を参考にして勉強していきたいと思っている。

(委員)

まず、保護者の考えで言わせていただくと、正直この人数を見ると統合しなくちゃいけないと思うが、自分自身この委員になりながらも、迷っているところはある。私たちの地域は大体おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいる。地域の方々にも支えられて、遊びに行くにしても何にしても、普通に道路を歩いていると、あそこ子どもだねとか、大体は声をかけてくれる。

学校のお迎えとかも、お父さん、お母さんはほぼ皆共働きなので、おじいちゃん、おばあちゃんが軽トラで迎えに行くのは当たり前で、子どもたちは何も思わない。私たちは今、地域の方々にも支えられて、すごく安心して子育てができているかなと思っ

ている。

郷土芸能も残っていて、地域の方々が学校に教えに来てくれて、郷土芸能を残して行こうと計画し、練習もしているので、統合には反対という意見もある。

自分の子どもは0歳時からこども園に入れて、小学校から移動したが、子どもたちは友達を作るにしても柔軟性があるので、すぐに溶け込める。そういう点では統合というのもいいかなという感じはするが、子どもを育てるに当たって、その地域の人々の目があって、私たちが離れていても、仕事から帰ってくると「そこで遊んでいたよ」と声が聞こえるのが一番安心できることかなという感じはする。統合してしまうとそういう機会も減るので、おじいちゃん、おばあちゃんもいきなりそういう楽しみがなくなってしまうのかなと感じている。

今、学校では、スクールバスを利用して、帰りは何便かに分かれて移動している。疑問に思ったのが、スクールバスが最後5時ということ。5時45分まで部活動を延長した子はスクールバスで帰れないので、親が迎えに行く。ただ、親は皆、働きに出ているので、本当に急いで帰らなければ迎えに行けないし、それこそおじいちゃん、おばあちゃんがいるからこそ、送り迎えができる。親だけではその時間帯はスクールバスがなければ無理。運転士さんとか、色々な問題があるかもしれないが、統合した時に最後の1人まで必ずスクールバスに乗せて帰せるような体制を作らないと、いろんな問題が出てくるのではないかなと思う。

最後に特別支援教室について。幼稚園の頃から支援が必要な子どもたちが何人かクラスにいた。幼稚園の時には、その子どもたちには、1人支援員さんが付いて生活をして、小学校では何人か特別支援教室を利用していた。少人数だからこそというわけではないが、他の学年の子たち皆がその子に手を貸してあげたり、小学1年生で入ったときよりも、本当にすごく成長が見られた。これからも支援を必要とする子どもたちがいると思うが、普通の学校で暮らせるような環境を作っていければいいのかなと思う。子どもたちを見ていると、いろんな刺激を受けて伸びていくと思うので、そういった環境も作っていつてもらえたらいいかなと思う。

今の段階では本当に迷っているところで、学校に行って話をするとと言われても、私は迷っているから統合の話ができるかどうか。子どもたちの教育も大事だとは思いますが、やっぱり、環境とか自立性というのか、そういうのを考えたほうがいいかなと思う。

今、不登校も増えているので、統合したときに環境が変化して、不登校の生徒が増えなければいいなとは思っている。これからも色々と意見を出しつつ、意見を聞きつつ、この委員会に参加していこうと思う。

(福成委員長)

これから、合併統合が必要か必要じゃないかということ協議していくのではなく、もうしなければいけない現状を、今日の説明で十分承知していただいたと思う。今、

お話しいただいた問題も、どこの学校にも、どこの地域にも、これから合併統合した後には大きな悩みとして出てくる問題だと思う。それを丁寧に皆さんと協議できたらと思っている。

(委員)

私も同じ意見になるけれども、登下校など、子どもたちは地域の方々に見守られて過ごしていて、その中で礼儀とか挨拶とかそういうことを学んでいる。そういうのもあって、地域の方々もそれが楽しみで朝出てきたり、夕方に出てきたりというのがあると思うので、統合はどうかなという気持ちもあったが、資料を見ると子どもの数が少なくなっているし、実際、父兄の方々もこんなに子どもの数が減ると分かっていないと思うので、皆がこの資料を見る機会が増えればいいなと思う。

(委員)

私も子どもたちも同じ小学校出身で、私の時には1学年4クラスあったが、今は1クラス、2クラス。行事などに参加させてもらっても、ちょっと寂しいかなという部分がある。

統合することによって、人との関わり方とか先生や子どもたちの上下関係、先輩後輩の上下関係も覚えていってもらいたいというところもあるけれど、保護者としてはやはり心配なこともたくさんあって、このアンケートの意見にも載っているが、それを全部解決して安心して登校させられるように話し合っていければ良いと思う。

(委員)

私からは2点。

学校を運営するとなると市政が大事だと思う。子どもに対するお金の使い方を考える時期であって、例えば、学校の数が多くて予算がハードのために使われるというのは、ちょっともったいないなと思う。例えば、学校を2つ、3つにしたときには、今の状況よりこのぐらい予算が浮くから、修学旅行は海外に行こうとか、一人ひとりにお金を使えるような状況になればいいのかなと思っている。

もう1点。各地域に学校が1つみたいな形が望ましいところはあるかと思うが、統合によって学校がなくなる地域があるということで、その地域とどのように学校が関わっていくのか、そういうところを考えていかないと、この統合というのは難しいのかなと思っている。各学校独自の行事をどのように継続していくのかななどの検討も必要になってくるのではないかと思う。

(委員)

児童生徒がどんどん減っているので、統合はやむなしなのかなという気はしている。

ただ、やっぱり慎重に進めていかないと、なかなかうまく進まなかったり、あとは、統合したからといって良いことばかりではないので、良いことももちろんあるが、課題も増えるところもあって、慎重に話し合って、理解をいただいて進めていかないと頓挫してしまうこともある。県内でも統合後の学校名で揉めて1年間延びたというところもある。逆にスムーズに理解をいただいて、予定通りに進んだというところも当然あるが、いずれ丁寧に説明して慎重に進めなければならないかなと思う。地域の方やPTAへの説明もあるので、理解をいただきながら進めないと、こんなはずではなかったということになることもあるかなと思っている。

あとは部活動の話も出ていたが、部活動については、あまり統合に期待しないほうがいいかなと思っている。生徒数がどんどん減っていくので、統合したからなんでも部活を続けられるかという、現実はそのではなく、現状維持が精一杯というのが実情なのではないかなと思っている。

昨年度から部活動の地域移行が進んでいて、まだ始まったばかりで途中ではあるが、今後どんどん移行していくのだろうかなと思っている。また、生徒がやりたいものも多様化しており、今、中学校では全員加入ではなくなっている。統合したら生徒数は増えるわけだが、部活動の人数がそのまま増えるかという、そうでもなかったりする、部活動の部分は別なものとして考えていかなければならないのかなと思う。

(委員)

保護者の声、反応のところに書いてあるように、統合には賛成だけれども、実際は自分事として捉えていないというのは、昨年度、地域での説明会があった時に感じた。参加者がすごく少ないなと思った。実際のところを分かっている方がたくさんいるのではないかなと思うが、資料を見れば、やっぱり統合は必要なんだと思う方、理解してくれる方が増えるのではないかなと思う。

地域等、色々なところでも説明とか、スクールバスの準備とか、色々なことを進めていく中で、子どもたちはもちろん、皆が安心して統合できるということが大事になるかなと思ったので、皆で丁寧に進めていければいいかなと思っている。

(福成委員長)

長くなったが、今日皆さんで顔合わせをして、一言ずつでも皆さんの意見を伺えたのはとてもよかったと思う。

これからもこのような形で進めさせていただく。忌憚のない、普段思っている意見を皆さんで協議したいと思う。

⑤その他

(委員)

資料 2-1、2 基本方針 (2) 手法②のところに、「小中一貫教育（小中一貫校及び義務教育学校の導入の可能性について検討します）」と明記されているが、小中一貫教育に対する説明資料不足があっては検討に入れないと思うので、事務局のほうでそういう説明資料の補充をお願いしたい。

(谷藤室長補佐)

第2回目の委員会は会場が中妻地区生活応援センターで、日程は10月4日金曜日、時間は6時からということで今調整しているが、小中一貫教育、義務教育学校について、この委員会のアドバイザーである先生に来ていただいて、委員の皆様を対象に勉強会をしたいと考えていた。我々も実際に先生の話の伺って、知識を得ながら今後の計画策定等に取り組みたいと思う。

(委員)

今回、資料が多かった。小中一貫校に対する資料もそれなりに量が出ると思うので、できたら事前に資料をいただいて、目を通したい。今日も6時半から8時の予定でこのぐらいの人数の方々から意見が出ると、それなりの時間がかかるので、その工夫も加えてお願いしたい。

(谷藤室長補佐)

先生と調整しているが、事前に資料をいただけるようであれば、皆様に展開して、事前に質問事項等を確認しながら進めていきたいと思う。

(8) 閉会 (教育部長あいさつ)